

指<sup>キ</sup> 遺<sup>ニ</sup> 人<sup>ヨ</sup> 形<sup>ル</sup> 劇

# 『お山のでもと』

井 川 定 澄

人 形 (四個)

母 ざ る

猿 八 (小ざる)

権 八 (にがみ走つた顔)

その 母 (やさしい白髪の老母)

一人で人形を使ふ場合

## 第一幕

餘り長時間となつて指遣人形劇の効果を失ふ恐れのある場合  
演者が身を隠すに先ちて童話説明を與へて、直ちに第二幕に遷  
つても可。こゝでは第一幕の梗概に止めやう。

**大略** 輕快な童謡譜で開幕、それは楽しい山中で、母  
ざる、子猿が或は唱ひ、或は踊つてゐる。ミ、突然母猿  
が(石を投げられて)倒れる。人の近づく様子に子猿は母

猿をかばひながら漸く逃る。そこへ、同じく此の山に住  
んでゐる喧嘩屋権八おちさん登場し、四面を探りつゝ退  
場。二匹の猿はもこの位置にかへり安堵するが、夕べの  
近づくに共に母猿は死し、子猿が泣いてゐる。(藤井制心  
氏作曲の夕べの曲、照明は夕焼を示す)そこへ老母が吾が子  
権八の歸りを迎へんがために登場するが氣の毒に思ひ、  
己が孫なき淋しさから我が家へ連れ歸らんことをすゝめ  
て幕。

## 第二幕

**背景** 左に山家の一軒家、右に大木をあしらひ、その根  
方に母ざるの墓標。

**人形** 左手に老母、右手に小猿を持つ。

**説明** 母ざるをなくしたあの小猿は、おばあさんに助け

られ猿八名附けられて權八の家に育てられることになりました。

輕快な音楽で開幕、照明は明るく、老母がしゃがんで洗濯してゐる。

老母 もうあれから一年もたつたんだなあ、猿八も随分

大きくなつて、權八も此の頃ぢや猿八をいぢめなくなつたやうだし。いや／＼此れがせめて權八の罪亡しだからな（猿八登場）

猿八 おばあさん、今かへりましたよ。

老母 おゝ歸つたか

さうだつた、お山は楽しかつたかい。

猿八 そりや秋ですもの、一年中で秋のお山ほご楽しいここはありませんよ。

老母 所でな、猿八や、久しぶりで此のおばあさんもお山へ遊びに行きたいと思つてゐたんだよ。

猿八 ぢや行きませう、さ今直ぐ

老母 おゝ待つておくれよ、そんなにひつぱつちや

おばあさんはね、此のお洗濯さへ済めば直ぐ行くよ。

猿八 それではお手傳ひいたしませう。

老母 いや／＼結構々々、もう直き済むんだからね。  
猿八 ぢやまつてゐますよ。

「お山のあさは鴉が好き

こんこん鴉つきやおざり出す

ほんにお猿は道化もの

「赤いべと着て傘さして

おしやれ猿さん……………

老母 （息をついで）やつこ出来たよ、さあ行きませうかな。

「お手々つないで野道を行けば

みんな可愛い小鳥になつて

歌をうたへば靴がなる

晴れたみ空に靴がなる。

（踊りながら去る、老母をはづし左手に權八をさし込み照明は夕焼をあらはして赤くして行く、鳥の啼聲、鼻の啼聲がする、權八登場）

權八 おばあさん只今……………今かへりましたよ。おや變

だね、猿八やーい（る聲を高くす）

お使ひにでも出たのかな、まあいゝや、待つこしよかな。

（照明はだんく暗く夜をあらはす、権八急にあはて出す。）

権八　まてよ、こんなにおそくなつて、まだ歸つて來ないとするこ、若しや……………

（出来れば幻燈、影繪を以て直接背景に二匹の猿のうごめきを示す。）

権八　そうだ、猿八はおばあさんを山へ連れ出して、警打をしたのかも知れないぞ。おばあさん！　おばあさん！　おばあさん！

（舞臺のあちこちに動かし、やがて人形をおちつかせ頭を垂す、右手より靜に猿八登場、猿八は何かを握むや急に右手に退場、権八氣がついて）

権八　あゝ猿八だ、まてく、待たぬか、一體おばあさんをどうしたんだ。

（追つかけたが見失ひ、中央にもどる）  
権八　何を持つて逃げたんだらう。

あれ薬がない、大切なく傷薬が、おばあさんを苦しめて置きながら、こんなにまでして困らせるなんて、口惜しいく、猿八、見付次第仕返へしをしてやるから。

権八　（首垂れて）おばあさんに「幾ら可愛がつてゐても、何時仕返へしをするかも知れせんよ」こ、あれ

ほ言つておいたのにな。

（虫の聲、靜かに幕）

### 第三幕

前と同じ場所、數日經た或日の夕べ、権八探し疲れて歸つて來る。権八登場、照明明るく。

権八　ハ、今日も駄目だったか、お腹もペコく御飯でも食べませうかな、あれ、お櫃が空つぽ、猿八の足跡があるぞ、

宜し今夜は寢ずに待つてやらう。

（犬の遠吠がする）

権八　さうやら來たらしいぞ（舞臺下へ身を隠す、何にも知らない猿八は靜かにく登場すると、突然）

権八　やい、猿八、

説明　権八おぢさんは隠し持った出刃庖丁を投げつけました。

猿八　痛タタ……、おぢさんゆるして、苦しい、おぢさんく。

権八 猿八、もう幾ら逃げたつて駄目だ。

猿八 おぢさんくゆるして。

権八 逃けるんだな、猿八まで、(猿八は倒れては起上り、

苦しそうに右手に逃げ込む、権八は後を追ふ。)幕

## 第四幕

背景 右に山峯、

人形 左手に権八、右手は猿八をはずし老母をはめて猿

八を抱かす。

子守歌の曲で開幕、照明は月夜を暗示するもの

老母 猿八や、随分心配をかけたね。

猿八 おばあさんが快くなつて下さつて、僕は本當にうれ

しいよ。

老母 全くお前のおかげだよ、さ、お前に何をお禮しま

せうかね。

猿八 いゝんですよ、お母さんを亡くした僕が、今日ま

でこんなに楽しかつたのもみんなおばあさんのお

かけなんですよ、

そんなに言はれると、何だか恥しいな。

老母 おや、一體さうしたんだい、血が、血が出てゐる

よ。

猿八 おばあさんそれはね、

それはね、さつき轉んだ時の傷ですよ。

老母 そう、ぢや早く手當てをしなきゃ、そうくお前

が持つて来てくれた薬りをつけてあげませう。

猿八 いゝんですよ、おばあさんさへ快くなつて下さ

れば、それだけで嬉しいんですよ(左手より権八登

場)

権八 猿八はたしかこゝへ下りた筈だ。

あれ、おばあさんの聲がする、おばあさん。

老母 あ、権八がよく来てくれましたね。

権八 おばあさん、猿八は？

老母 猿八かい、猿八ならこゝにゐるよ。

権八 猿八がゐるつて、あれ！

老母 権八や、お前猿八にお禮を言つておくれ。

権八 こりや、さういふ譯ですか。

老母 丁度三日前だつたよ、猿八と二人で遊でゐるさね

それその崖から足をすべらせて歩けなくなつたん

だよ。

権八 それからさうしたんです？

老母 幸ひ猿八がゐてくれて助かりましたよ、若し猿八

がゐてくれなかつたら、おばあさんは死んでしまふ所だつたよ。

権八 すまなかつた、猿八やゆるしておくれ、私はなん

にも知らずに大變なこゝを。

老母 大變なこゝつて？

権八 今迄、猿八をにくいくゝまばかり思つてついさつき

出刃庖丁を猿八に投げつけたんです。

老母 では、此の傷はお前か。

権八 そうなんです、猿八ゆるしておくれ、佛の様なお

前を疑つたりなんかして。

猿八 おぢさん、今迄恐しいおぢさんだまばかり思つて

ゐたのに、やつぱりいゝおぢさんだ。

老母 猿八や、権八を赦してやつておくれ、明日はお家

へ歸らうと思つてゐたのに、ごうかお前も良くなつておくれ。

猿八 猿八はもういゝんですよ、おぢさんが本當に良い

おぢさんになつて下さつて、ほうれおぢさんのお目から涙が出てゐますよ。(照明を明るくする)

権八 猿八快なつておくれ、赦しておくれ、そして明日

猿八 から此のおぢさんご遊ぶんだよ。

おばあさん、おぢさん、見てごらん、良いお月様

ですよ。

みうれしい時に見る月は

ニコニコ笑顔の圓い月

私の心もうれしいな。

——幕——

## 雜 錄

ありふれた筋で、どなたかの原作に似てゐるかも知れぬ。こゝに右手、左手とは演者を規準として記しました。

粘土、新聞紙、糊で頭、手の型を作り、その上を日本紙で張り(顔面以外を)、幾回も糊液中に滲し、次に白粉で塗りつぶし適宜に着色、後ニス液に滲し、陶器以上の堅固なものを作つた。人形の顔はなるべく白く造ることだ。人形を造るものは自分でなければならぬ。五六回失敗して漸く完成した。着物も人に頼つて指に合はず、結局、まづいながら自分で縫つた、児童教化も人に期待すべき問題でもなからう。

指遣人形は無理に活動させんとして失敗する。児童は素朴的想像力に富み、夢幻の世界に遊ぶから。此の點から推して、背景がなくとも、ライトを使用せずとも良い、音楽も演者が適當な童謡を吟む程度で良い、立派な舞臺を作らなくとも、屏風、襖、衝立で簡単に演れる。児童の演劇本能を全然無視したものでなければ、児童教化の上に害はないから。尙ほ人形劇は種類が多い、大に研究されて、今後児童教化の上には非使用され度い。その纏つた参考書として、内山憲堂氏の「指遣人形劇」の製作と演出がある。

完(一二、二、五)